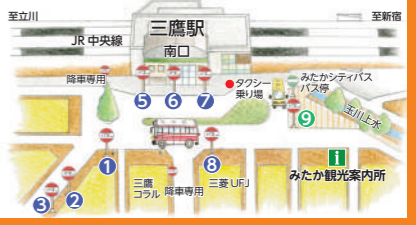


Area 3 太宰治の足跡コース

Historic Footsteps of the Japanese Author, Dazai
 太宰治の足跡
 다자이 오사무의 발자취 코스

三鷹駅からのアクセス

- ◎太宰治のお墓がある禅林寺 ⑪
- 停留所 ⑤ 51 「国際基督教大学、調布駅北口、調布飛行場、大沢/大沢十字路」
 - 停留所 ⑥ 52 「神原記念病院/多摩駅、朝日町3丁目、車返団地」
 - 停留所 ⑦ 54 「山川/新川団地中央、晃華学園東」
 - 停留所 ⑧ 65 「深大寺/神代植物公園前」
- ↓降車バス停「八幡前」(約5分)



太宰の足跡：全て訪れるコース 約6.7km 2時間50分コース

START 三鷹駅南口 → 2分 → ① 太宰治展示室 (滞在時間約15分) → 10分 → ② 陸橋 (滞在時間約5分) → 10分 → ③ 中鉢家跡 → 5分 → ④ 田辺肉店 離れ跡 → 3分 → ⑤ 太宰治文学サロン (滞在時間約25分) → 3分 → ⑥ 野川家跡 → 20分 → ⑦ 小料理屋「千草」跡 (滞在時間約15分) → 25分 → ⑧ 玉鹿石 → 5分 → ⑨ 旧居跡のさるすべり → 10分 → ⑩ 新橋付近 → 15分 → ⑪ 禅林寺 → 20分 → GOAL 三鷹駅南口

太宰の足跡：お墓参りコース 約3.1km 1時間30分コース

START 三鷹駅南口 → 2分 → ⑦ 小料理屋「千草」跡 (滞在時間約25分) → 2分 → ⑤ 太宰治文学サロン → 2分 → ④ 田辺肉店 離れ跡 (滞在時間約15分) → 15分 → ⑪ 禅林寺 → 20分 → GOAL 三鷹駅南口

太宰が暮らし歩き 執筆し飲んだ三鷹を感じてほしい

Walk through Dazai's footsteps, where the literary legend drunk and devoted to his works
 希望可以让您体验到太宰在三鷹生活、散步、写作、饮酒的感受
 다자이가 생활하고, 걷고, 집필하고 술을 마셨던 미타카를 느껴 주시기

写真提供：日本近代文学館

① 太宰治展示室 三鷹のこの小さい家 (5F三鷹市美術ギャラリー内)

Dazai Osamu Exhibit Room - This small house in Mitaka 太宰治展示室 三鷹小屋遺址 다자이 오사무 전사실 미타카의 이 작은 집

太宰治の自宅を一部再現。「常設展示室」「企画展示室」「体験型展示室」に加え、縁側から麦畑を一望するかのよう太宰が描いた書画を眺められるスペースもある。

10:00～18:00 ☎0422-79-0033
 休館：月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日と翌々日を休館)、年末年始 ※展示替えのための臨時休館あり 無料

傑作の多くは太宰の三鷹時代に生まれた。仕事部屋の跡地を訪ねてみよう!

③ 中鉢家跡 (現・藤和シテイスクエア)

The Former Nakabachi Family Residence Site 中鉢家跡址 나카바치가(中鉢家)터(현 도와 시티스퀘어)

太宰治が疎開先金木町から三鷹に帰り、最初に仕事部屋としたところで、作品「朝」に登場する。ここでは、作品「メリークリスマス」「ヴィヨンの妻」を執筆した。

④ 田辺肉店離れ跡 (現・ムサシ三鷹ビル)

The Former Tanabe-Nikuten's Annex Site 田辺肉店分館旧址 다나베 정육점 별채 터

太宰治は神奈川県下曾我雄山荘の太田静子の元を訪れ、日記を借りて伊豆の三津浜「安田屋旅館」で「斜陽」を起稿する。ここは、2番目の仕事部屋で第3章以降を書き上げた。ミステリー作品「犯人」は、田辺肉店が舞台となっている。

⑥ 野川家跡 (現・永塚葬儀社)

The Former Nogawa Family Residence Site 野川家旧址 노가와가(野川家)터(현 나가쓰카(永塚) 장의사)

美容師山崎富栄が、三鷹駅前の美容院で働くため下宿した場所。太宰治が1947年(昭和22)の初秋から最後の仕事部屋にした場所。2人は遺書を置き、遺品を片付け、1948年(昭和23)6月13日深夜、玉川上水に・・・。

⑦ 小料理屋「千草」跡 (現・Brillia MITAKA)

The Former Diner Site, Chigusa 小饭馆“千草”旧址 일식 요리집 '지구사(千草)' 터

作家仲間・編集者との打合せの場所でもあった小料理屋。2階を仕事部屋にもした。太宰治の行方不明後は搜索本部となり、遺体発見後は検死場所となった。主人鶴巻幸之助さんは、桜桃忌の御世話をしていた。

作家太宰治は、1939年(昭和14)9月1日東京府北多摩郡三鷹村下連雀(現東京都三鷹市下連雀)に転居してきました。そして、1948年(昭和23)6月に自死するまでの9年間に、「斜陽」「走れメロス」「人間失格」などの作品を発表しました。

この「太宰治足跡コース」は、そんな三鷹時代を偲ぶよすがとしてガイドするものです。現存するゆかりの場所はほとんど消滅していますが、太宰が暮らし歩き執筆し飲んだ三鷹を、時空を超えて感じていただければ幸いです。

② 陸橋 (三鷹跨線人道橋)

Rikubashi 陆桥 육교(미타카 과선인도교)

1929年(昭和4)に造られた。この近くに仕事部屋があった太宰治は、この陸橋が好きで「いいところがある」と言って、編集者や弟子を連れて来ていた。老朽化のため、2023年(令和5)12月に閉鎖され、解体が始まっている。

⑤ 三鷹市太宰治文学サロン

Dazai Osamu Literary Salon 太宰治文学沙龙 다자이 오사무 문학살롱

“太宰が生きたまち三鷹”の拠点となり、情報交流と発信の場そして市民の交流の場となっている。太宰が通った「伊勢元酒店」の跡地に2008年(平成20)3月、開設され、2022年(令和4)3月ブックカフェ機能を追加しリニューアルした。10:00～17:30 ☎0422-26-9150
 休館：月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日と翌々日を休館)、年末年始 無料

⑪ 禅林寺 (黄檗宗)

Zenrinji 禅林寺 췌린지(禅林寺)(황벽종)

1700年(元禄13)創建の禅寺。作品「花吹雪」に「この寺には森鷗外の墓がある。(中略)墓地は清潔で鷗外の文章の片影がある。私の汚い骨もこんな小綺麗な墓地の片隅に埋められたら、死後の救いがあるかもしれない・・・」と書かれていることから、ここに眠ることになった。太宰治の墓の前に森鷗外(林太郎)の墓がある。

⑧ 玉鹿石

Gyokkaseki 玉鹿石 옥록석(玉鹿石)

太宰治と山崎富栄が入水した場所の近くに設置。太宰治は玉川上水を散歩する時、滝のような流れだったこの場所が好きだった。よく編集者や作家仲間を連れてきていた場所。故郷金木町(現：五所川原市)産の玉鹿石が置かれている。

⑩ 新橋付近

Shinbashi Bridge Area 新橋周辺 신마시(新橋)부근

当時の玉川上水は「人食い川」と呼ばれるほど急流で水量も多く、太宰治と山崎富栄の搜索は、多摩川羽村の取水口で取水制限を行われた。そして、上水に架かる新橋付近で、紐で結ばれた2人が発見された。奇しくも太宰治の誕生日6月19日だった。

⑪ 禅林寺 (黄檗宗)

Zenrinji 禅林寺 췌린지(禅林寺)(황벽종)

1700年(元禄13)創建の禅寺。作品「花吹雪」に「この寺には森鷗外の墓がある。(中略)墓地は清潔で鷗外の文章の片影がある。私の汚い骨もこんな小綺麗な墓地の片隅に埋められたら、死後の救いがあるかもしれない・・・」と書かれていることから、ここに眠ることになった。太宰治の墓の前に森鷗外(林太郎)の墓がある。

⑨ 旧居跡のさるすべり

A crape myrtle 故居旧址的海棠樹 옛집터의 백일홍

三鷹市の和風文化施設「みたか井心亭」に、太宰治旧居の門柱わきに植えられていた「さるすべり」が移植されている。作品「おさん」には、この「さるすべり」が登場する。



12 連雀湯跡 (現・Honda Dream 吉祥寺)

The Former Public Bath Site, Renjaku-Yu 连雀公共浴池旧址 렌자쿠 목욕탕 터

かつて太宰一家が通っていた銭湯がここにあった。小説「十二月八日」には、小説家の妻が子供を連れて銭湯に行く場面が描かれている。

コース沿いのお薦めの店

A 珈琲 松井商店 喫茶

珈琲松井商店の前身の松井商店(酒・たばこ店)には太宰もよく買い物に来ていました。太宰を主人公にしたオリジナルのDazai COFFEEは厳選した豆を最新式の自家焙煎機でブレンド。深くピターな味わいをお楽しみください。

11:00～18:00 (LO17:30)
 水・木・日曜定休
 三鷹市下連雀 2-16-10-2F ☎0422-47-2303

B Rose&M レモンケーキ・焼き菓子・珈琲紅茶、雑貨販売

焼きたてスコーン、三鷹の平飼い卵を使ったレモンケーキ、自家焙煎のコーヒー、オリジナルブレンドの紅茶を揃えております。

11:30～19:00 水曜定休
 三鷹市下連雀4-17-10 ひだりまきビル1F ☎0422-26-8670
<https://www.roseandm.com>